

第0号 「宝物・文化財」紹介ページの開設にあたって

本ページをご覧いただきましてまことにありがとうございます。

いまご覧いただいているここは、このたび（令和7年1月から）新たに開設いたしました大阪天満宮（以下、当宮）所蔵にかかる「宝物・文化財」を紹介して行くページです。当宮所蔵の「宝物・文化財」から、分野別、ジャンル別の「総リスト・図版付一覧表」をひとまずこの1年間＝12回の連載をして、将来的には、当宮所蔵「宝物・文化財」の全貌の紹介をめざします。

当宮所蔵「宝物・文化財」については、後述するような現在までの状況事情に鑑みましてさしあたって、およそ「1000点」に及ぼんとするそのジャンルごとの紹介に努めることを（ラインアップにはジャンルごとの表紙を並べたページの分類と順を予定していますが）このたびの、この連載ページの第一義＝最優先課題といたしたい、と考えています。そのため、各回「総リスト・図版付一覧表」作成を第一義として、ホームページの技術的な制約、諸般の事情、そしてなにより編集担当者の力量の点から、精細な個別写真図版の掲載、詳細な解説や論考等の掲載につきましては、後日にゆづらざるを得ません。

それでもなお、この連載を始めるべきと考えましたのは、現在の、そして将来にわたる当宮「宝物・文化財」にかかわる取り組み（＝保存・活用・伝承…）や企画実現に向けても、いま求められているのは、これまでの成果を踏まえつつ、これまでの不十分さを克服して、可及的速やかに、**確実に基礎的なデータや情報を確立し**、何よりそれを**皆で共有すること**、その重要性和大切さを思うからにはほかなりません。

またそれこそが、当宮の「宝物・文化財」をこれまで折々の困難のうちにあっても、愛し守り伝えてくださった、当宮にかかわったすべての先人の誠の心に、いまの時点から応える、後輩の取るべき謙虚かつ真摯な態度—私たちの誠、と信じるから、あるいはこの時を越えたつながりにこそ、正しく伝統と呼ぶべきものの基盤があると信じるからでもあります。

ここでは、連載に先立つ、「第0号」という位置づけで、本ページ「開設にあたって」、というタイトルを掲げて、当宮「宝物・文化財」に関しての、**これまでの経緯といまの状況**（といたしましても現時点で筆者の知る限りにすぎませんが）、**これからの展望**も誌すことといたしまして、次号以降の連載の前提、ないしは予習的な情報といたしたく存じます。

以下、少なからず長文にわたりますが、ご一読をお願いいたします。

令和7年（2025）1月25日

（編集担当：鈴木幸人・当宮文化研究所研究員）

■この「宝物・文化財」紹介ページの概要

「社報てんまてんじん」令和7年新春号外での予告記事、再掲

ここには、ひとまず、「宝物・文化財」紹介ページについてその概要をお伝えするために、開設予告として、本年（令和7年・2025年）1月「社報てんまてんじん 令和7年新春号外」に掲載した文章を再掲いたします。（文言の一部を修正しています。）

当宮所蔵の「宝物・文化財」の調査と紹介ページ作成にむけて

◆「宝物・文化財」の再調査・再確認を進めています

当宮には長い歴史の中で、数多くの「宝物・什器・調度品」等、宝物・文化財が伝えられています。当宮の信仰や歴史を正しく知るためにも、文化史や美術史の立場からも貴重な品々です。

「宝物台帳」の類も、明治期から昭和終戦後まで幾冊もあり、克明な記載からは時々の先達の努力が偲ばれるものです。近時においては当宮「史料室」（現文化研究所）により、大阪市立博物館（現大阪歴史博物館）の協力を得て、平成期「宝物・什器類の悉皆調査」が、平成6年から9年度にかけて行われました（社報26～29、33号参照）。

その成果として、平成10年3月時点で宝物目録が作成され、そこには総項目数「768件」に上る絵画や工芸品の詳細なデータが記載されました。しかし残念ながらその調査報告、宝物・文化財の全貌はこれまで十分な公開にはいたっておりませんでした。

◆今後、当宮ホームページに「宝物・文化財紹介ページ」を掲載していきます

昨年（令和6年）から、「平成10年悉皆調査データ」にもとづき、社務所の職員諸氏にも参加してもらい、再調査・再確認の作業を進めています（写真参照）。

その中で昨夏（令和6年夏）、境内北側「第二御文庫」撤去に伴い収蔵物を移動しましたが、そこから屏風絵、梅花殿襖、御迎船人形の箱等の所在が確認されました。現在、若手神職の皆さんの力を借りて鋭意調査中です。

こうした状況をふまえて、2年後（令和9年）に迫る「菅公1125年祭」の節目の年にも向けて、当宮の宝物・文化財の全貌を紹介する場として、このたび、ホームページに宝物・文化財の紹介ページを新設することといたしました。

宝物各分野、天神画像（御神影）、天神名号（御神号）、縁起絵（御絵伝記）、祭礼絵図、御迎人形、襖絵板戸絵、奉納絵画、絵馬、境内石造物…、それぞれの「総目録・写真画像付き一覧表」を、毎月追加更新して紹介する計画です。諸事制約もありますが、当宮「宝物・文化財」の幅広さと奥深さ、そしてなにより大切さを、ご紹介できる場にしたいと考えております。（文化研究所 鈴木）



*以上、この「社報」の記事によっても、本紹介ページのめざすところをご理解いただけると存じますが、次ページ以降には、これまでの経緯など、補足も含めて、もう少し詳細をしるしておきます。

■「宝物・文化財」これまでの経緯（1）

現在までの文化財指定 一 国・大阪府・大阪市の「指定文化財」

当宮所蔵品は、その歴史的・文化的な価値を、文化財保護行政の観点から、「文化財指定」というかたちで認められてまいりました。

早くに昭和48年（1973）大阪府指定文化財となったのは天神祭の「御迎船人形」でした。平成13年（2001）「天神祭礼船渡御図屏風」と「船形山車天神丸」が大阪市指定文化財、平成23年（2011）大岡春卜筆「春秋遊牛図屏風」が大阪府指定文化財となりました。近いところでは、令和4年（2022）天神画像・縁起絵が、「天神信仰関係画像史料」として大阪市指定文化財とされますが、これは当宮所蔵の天神画像や縁起絵を一括しての指定が目論まれたものです。そのため指定名称が「…画像史料 一括（77件）」となっています。（これについては「社報てんまてんじん」令和5年新春号外の関連記事、大阪市の当該HP、<https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000571261.html> もご参照ください。）

また、当宮建造物では、平成11年（1999）「梅花殿・神楽所・参集所」が国の登録文化財、令和6年（2024）には「本殿・幣殿および拝殿、中門・透塀・表門」が大阪市の指定文化財となりました（後者については「社報てんまてんじん」86号ご参照ください）。

*令和7年1月時点での指定（有形）文化財の一覧は、以下のとおりです（1）～（7）

*大阪天満宮 国・大阪府・大阪市の指定文化財（有形）リスト（令和7年1月現在）			
（1）国登録有形文化財（建造物）	第27-0076~0078号	平成11年10月14日登録	大阪天満宮梅花殿1棟（昭和3）神楽所1棟（明治37）参集所1棟（明治44）
（2）大阪府指定民俗有形文化財	有形第2号	昭和48年3月30日指定	天神祭の御迎え人形（16体）（大阪市立住まいのミュージアム寄託） 附；天満宮御神事御迎船人形図会（1冊）御迎人形図木版刷（1枚） （昭和48年に14体指定、平成23年に2体追加、合計16体が指定対象）
（3）大阪府指定有形文化財（絵画）	絵第18号	平成23年1月14日指定	春秋遊牛図屏風 6曲1双 大岡春卜筆 江戸時代（大阪市立美術館寄託）
（4）大阪市指定有形文化財（絵画）	2001-有3	平成13年12月21日指定	天神祭礼船渡御図屏風 6曲1隻 伝長谷川光信筆（大阪歴史博物館寄託）
（5）大阪市指定有形民俗文化財	2001-有民1	平成13年12月21日指定	船形山車「天神丸」 1基（大阪市立住まいのミュージアム寄託）
（6）大阪市指定有形文化財 美工（歴史）	2021-有14	令和4年5月27日指定	大阪天満宮天神信仰関係画像史料 一括（77点）（一部大阪歴史博物館寄託）
（7）大阪市指定有形文化財（建造物）	2023-有1	令和6年7月18日指定	大阪天満宮本殿、幣殿および拝殿・中門・透塀・表大門 4棟

*なお私見ながら、当宮所蔵品のうち、今後の指定文化財の候補となりうるものはいくつか考えられます。各分野の調査・研究の進捗が俟たれるところでもあります。

■「宝物・文化財」これまでの経緯（2）

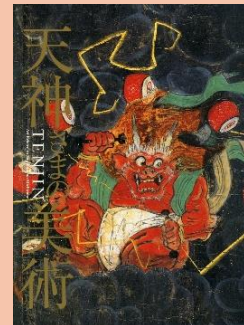
「宝物・文化財」紹介の場 —博物館施設での「展覧会」

当宮「宝物・文化財」は、「社報てんまてんじん」誌の他、各地の博物館施設での展覧会でも公開されて来ました。代表的な展観を紹介します。

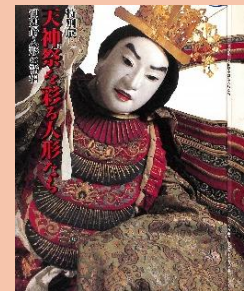
①昭和63年（1988）、大阪市立博物館「天満まるかじり」展において、当宮の絵画や資料類、あわせて約60件が展観されました。（ちなみにその以前、昭和49年頃に大阪市立博物館による宝物調査が実施され、その時の付箋ラベルが主だった「宝物・文化財」に付されています。）



②平成13年（2001）「天神さまの美術」展は翌年の「菅公1100年祭」にあわせて全国梅風会が特別協力した大型企画展で、東京国立博物館、福岡市博物館、大阪市立美術館の3館で開催されました。当宮からは代表的な天神画像や縁起絵他、9件出品されましたが、大阪会場には、とくに船型山車天神丸、御迎船人形も出展されました。

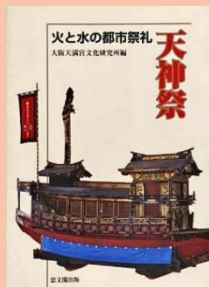


③平成15年（2003）には、大阪市立住まいのミュージアムにおいて、「天神祭を彩る人形たち 御迎船人形の諸相」が開催され御迎船人形が一堂に展観されました。（大阪府指定文化財である御迎船人形は、船型山車天神丸ともども、同ミュージアムに寄託保管されています。）



また大阪歴史博物館（天神画像、縁起絵他多数を寄託）では、天神祭の時期を選んで寄託品等による展観が随時行われています。その他、個別の宝物・美術品・史料等を貸出での展観もあります。（直近では本年、令和7年正月、熱田神宮宝物館へ屏風や掛軸が貸出されました。）

なおご承知のとおり「御迎え人形」については毎年天神祭の時期に当宮「参集所」に数体、寄託先の大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）、および近隣の老舗料亭やホテル施設等にも各一体ずつ飾られ、そのスタンプラリー開催も恒例となっています。



出版物では、平成14年の「菅原道真公1100年祭」にあわせて、京都思文閣出版刊行の『天神祭 火と水の都市祭礼』（平成13年11月25日、大阪天満宮文化研究所編集）に当宮所蔵品を中心に、天神祭・船渡御の様子を描いた多数の絵画作品が掲載されました。

このように当宮所蔵品を見ていただく機会を提供して参りましたが、現在、所蔵品公開用の施設を有さないこともあり、また全貌を一覧するような展観や図録・総目録もこれまで不十分な状況が続いておりました。将来に向けて、保存をはかり、活用を模索するためにも、皆様に関心を持っていただくためにも、そのまもった姿を紹介できる基礎データの作成と提供が、喫緊の課題と考えるに至った次第です。

*「社務日誌」によれば、式年遷宮に際して、境内に宝物を飾って公開し数多の参観者を集めた記録も散見します。近い将来、そのようなかつての再現展観なども試みたいと考えております。

■「宝物・文化財」これまでの経緯（3）

先達たちの取り組み —明治・大正・昭和の「宝物台帳」

いま、私どもの手元には天満宮社務所作成の歴代の「宝物台帳」の類がいくつかあります。各時期に所蔵宝物等の整理・確認作業が行われたことを示す、その台帳、目録です。

（もとより現時点で把握できている台帳に限られますし、詳細な検討＝現存の所蔵品との照合、異動の精査、またそのランク付けの基準等の分析も、今後のこととなるのですが、さしあたって、こうしたものがあることを知っていただきたく考えるところです。）

★いま、文化研究所にある【宝物台帳】（目録）＝①～④、および⑤

- ①「明治八年七月 神宝他目録」（大阪府権知事宛書上 古文書M3 1875年）
- ②「大正九年調 財産台帳 宝物什物之部」（原物、1920年）
- ③「昭和拾年八月 宝物什器台帳」（謄写、1935年）
- ④「昭和貳拾六年調 天満宮宝什物台帳」（原物、1951年）

などの財産宝物台帳があります。また、それらをふまえ、平成の悉皆調査に基づく

- ⑤「平成10年宝物リスト」（ワードデータ他・プリント、1998年）

がこれまで最新の目録となっております。

「大正9年財産台帳」と、「昭和26年宝什物台帳」の写真図版を掲げておきます

詳しい検討はこれからのことなのですが、一見して認められるその克明な記載からは、往時の先達諸氏の真摯さと尽力が偲ばれるところです。

就中、それらの表記の仕方や各番号の付け方＝分類や配列、つまりそれらは当時の品々の「格付け」にも通じていると想定されるのですが、そうした状況が読み取れるのも、現在の時点から重要で示唆的なことといえます。

（時代が変わり世相の変容によって、こうした品々の扱いもまた変遷をたどったからです。）

*なお、次に記します「平成の悉皆調査」でも、当然のことですが、これらの歴代の台帳が、その基礎データ、および参照資料となったことは言うまでもありません。



■「宝物・文化財」これまでの経緯（４）

平成6年—9年「宝物悉皆調査」、平成10年「宝物リスト」=768件

平成時代のはじめには、当宮史料室によって、**大阪市立博物館学芸課の協力**を得て、「平成の宝物什器悉皆調査」が実施されました。

大阪市立博物館（現大阪歴史博物館）から学芸員松浦清氏、澤井浩一氏、大澤研一氏らの参画を得て、当宮史料室（＝文化研究所の前身）から近江晴子、高島幸次、森下真由美各氏また社務所職員も随時の参加がありました。

平成6年（1994）3月から平成7年（1995）12月までは、ほぼ毎月1回（＝20数回）、平成8年（1996）に2回、同9年（1997）にも2回。おもに当宮収蔵庫で、所蔵品の寄託（＝預り保管）先の大阪市立博物館でも、あわせて**およそ25回の宝物調査**が行われました。（その熱心な取り組みの模様や再発見された「船渡御図屏風」などの報は、当時の「社報てんまてんじん」26号～29号、33号に報告が掲載されています）

この大規模な調査を受けて、平成10年（1998）3月段階で、現在「平成10年宝物リスト」と呼称される目録（ワープロソフト一太郎による）が作成され、そこには、**総件数「768件」**の所蔵品の**詳細なデータ**が記載され、**簡便な写真図版**も整理されました。

ただ、今から振り返って、たいへん残念なのは、これほどの宝物リストが作成されながら、それまでの当宮刊行の目録（後述『御文庫国書・漢書分類目録』『古文書目録』）のように刊行や公開等の活用には至らなかったことです。

その後、情報の追記などは継続された模様ですが、すでに調査の開始・リスト完成からは30年近い時間が経過しており、この間、未記載品の発見も確認され、新規の寄贈収蔵品もあり、宝物リストのアップグレードが課題となって久しく、今に至ることになります。

* 現在把握している当宮「宝物・文化財」の分野別内訳（概数）

「平成10年宝物リスト」の768件、および同リスト未掲載で、現在「文化研究所保管担当」の30数件をくわえた、およそ800件の「宝物・文化財」の分野別件数（概数）は、

- ・ **絵画書跡分野：掛軸卷子420件、屏風襖絵80件、扁額絵馬50件、一枚刷70件、他**
- ・ **工芸分野：祭具25件、陶器文具40件、人形類35件、鏡20件、武器刀剣45件、他**

となっております。（件数は今後の調査でさらに増えることが想定されています。）



左の写真は「平成悉皆調査」768件の「調書」原本です。これを基に平成10年3月時点の宝物目録（一太郎版）が作成され、調査時撮影の写真ともども整理されて、現在までの基本データとなっております。

まず、ここからアップデートがはかられ、昨年（令和7年）8月までにデータを再整理、ワードやエクセルデータにまとめ直し、右写真のような**768枚のカード**に作り直しました。現在はこれを再調査の基礎ノートとして使っております。

■「宝物・文化財」これまでの経緯（5）

「宝物・文化財」の範囲 = 「有形文化財」、とくに「美術工芸」分野

（附）御文庫奉納書籍・所蔵古文書史料の目録

*「宝物・文化財」の範囲について

本ページで取り扱う「宝物・文化財」は、いわゆる「有形文化財」、とくに「美術工芸」の分野となります。それは祭礼具、什器や調度品、また氏子・崇敬者の方々からの奉納品など当宮でいうところの「宝物・什器・調度品」がおおむね当該することになります。

そうした「宝物・文化財」について、現在私たちが参照している「平成10年宝物リスト」には「768件」の詳細なデータが記載されています。しかし、現時点で筆者の知る限りでも同リストに記載されていない多数の品々があり、現在当宮所蔵の品々＝「宝物・文化財」として対象となるのは、**おそらく1000件を越える**であろうと推測しています。

*御文庫奉納書籍・古文書史料の「目録」

一方、こうした考えに立ちますので、江戸時代以来、当宮「御文庫」に奉納された数多の「和漢書籍類」や、収集伝来の「連歌資料」、当宮に伝わる「古文書」、「社家日記・社務日誌」等の資料史料類は、原則として、ここでの「宝物・文化財」に含まれてはおりません。

なおこれもご承知のとおり、ここに除いた上記の和漢書籍類（連歌資料含む）、古文書・史料等については、すでに早い時期に、それぞれの「総目録」が刊行されております。

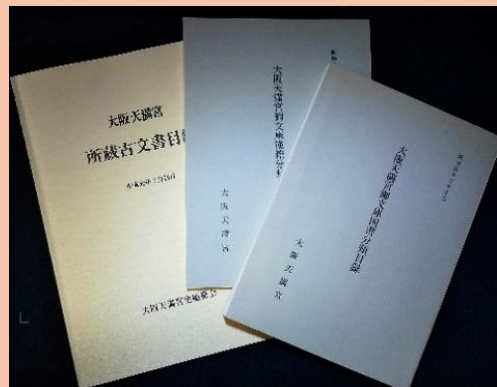
①『大阪天満宮御文庫国書分類目録』

『大阪天満宮御文庫漢籍分類目録』

（御神忌千七十五年祭記念、昭和52年・1977年
10月25日発行、大阪天満宮・寺井種茂、）

②『大阪天満宮所蔵古文書目録』

（平成元年・1989年7月25日発行、
大阪天満宮史編纂会編集、大阪天満宮発行）
がそれにあたります。



ちなみに、当宮「御文庫」の「和漢書籍収蔵数」は、昭和初期の時点で「十万冊を越える」とされています。（上記①『国書分類目録』掲載、寺井種茂宮司執筆の序の記述による。）また①『国書分類目録』『漢書分類目録』の巻末に掲載の書名索引には、合わせて「635件」に上る書籍名が立項されています。

■ これからの「宝物・文化財」紹介ページ（１） —連載ラインアップ案

表紙ページにも示したように、以下のラインアップを予定しています。

1. 天神画像（御神影）一覧
2. 天神名号（御神号）一覧
3. 天神縁起絵 一覧 （附）博多人形菅公一代記
4. 天神祭礼絵図 一覧
5. 御迎船人形 一覧 （附）船型山車天神丸
6. 御迎船人形 関連資料 一覧 （附）〈御迎船人形変遷表〉
7. 境内建造物障壁画 一覧
8. 境内石造物 一覧（石碑・灯笼）
9. 絵馬・鏡・天神土人形 一覧
10. 奉納絵画（近世・近代絵画） （附）江戸城襖絵下絵
11. 天満宮発行 書籍冊子 一覧 （附）社報の概要
12. 天満宮関係 絵ハガキ 一覧

（上記 12 回に含まれない宝物・文化財の分野は 13 回目以降に続く…）

■ これからの「宝物・文化財」紹介ページ（２） —『令和版・総目録』への結実

当宮「宝物・文化財」については、これから調査・研究・紹介を重ねて、その成果として「菅原道真公 1125 年祭」にかかわる一連の計画も見据えながら、遠くない将来において『大阪天満宮所蔵〈宝物・文化財〉図版付総目録（令和版）』（仮称）への結実が期待されます。従来ならば紙媒体での図録刊行となりますが、現在の諸状況からは、かならずしも紙媒体に拘ることなく、WEB 上での公開等も視野に考えられるべきかと思われま

以下、まったくの私案ですが、昨年（令和 6 年）春当宮に関わるようになってすぐに次のような「宝物・文化財」の分類・整理案＝図録構成案に思いを馳せておりました。

*『大阪天満宮所蔵〈宝物・文化財〉図版付総目録（令和版）』（仮称）構成案

総数 1000 件におよぶ当宮「宝物・文化財」を以下のテーマで分類・配列・集大成する。

- （すがた） 天神画像・菅公像、天神名号
- （かたる） 天神縁起絵（絵巻掛福）
- （まつる） 天神祭礼絵図（屏風浮世絵…）、神輿、御迎船人形、天神丸
- （いのる） 扁額・絵馬
- （かまえる） 建造物（社殿、参集殿、梅花殿）、石造物（鳥居燈籠…）
- （いろどる） 襖絵板戸絵（参集殿梅花殿神楽殿）、屏風絵、衝立…
- （たたえる） 境内石碑（記念碑句碑）、詩文書跡、近世絵画近代絵画
- （つたえる） 社報、冊子、刊行物、絵ハガキ、古写真…（記録・資料）

（*本紹介ページラインアップが、この構成案を承けているのは一目瞭然です…）

私どもとしてはこののち、ここに記した思いや考えに立って、試行錯誤しながらになりますが真摯に謙虚に努めてまいりますので、皆様におかれましては、何卒、鷹揚の御見物、ならびにご教示ご鞭撻のほどお願い申し上げます。（令和 7 年（2025 年）1 月 25 日、鈴木幸人記）

*現在のところ当宮では「宝物・文化財」の一般公開・閲覧等の実施には至っておりません。

諸事情ご付度の上ご諒解いただきますようお願いいたします。

(附記)

「^{ほうもつ}宝物・^{ぶんかざい}文化財」という呼称について — 「**信仰**」と「**学術**」の^{あわい}間

本ページでは、当宮所蔵の品々に「**宝物・文化財**」という呼称を用いております。それらが、なによりも、宗教的な祭具・什器・調度（＝宝物）である、と同時に、学術的な歴史資料や美術工芸（＝文化財）である、という意を込めてのことです。

これらの品々が、当宮にとって、まずもって**神事・祭祀、祭礼のための（＝信仰の）「宝物」**であること、それは決して揺らぐものではありません。それと同時に、当宮の信仰のあり方、これまでの諸相や変遷を、いまの私たちに伝えてくれる「よすが」であり、こののちの行くべき道筋を、教え導く「指針」でもあります。そして、当宮はもとより、広く天神信仰の、またあまねく、日本の、世界の、**信仰や、宗教、歴史、藝術、すなわち文化一般を考察し、探求するための（＝学術の）「文化財」**であると考えからにはほかなりません。

これらの品々こそが、「**信仰**」と「**学術**」のそれぞれを同時に示し、その違いとそれ故の相互の支え合い、**両者の橋渡し**となるのではないか、との考えから、そして、一見矛盾するように見える両者を、このように捉え直すことが、現代を生きる**私たちには必須の考え方や態度**ではないか、との思いから、当宮の品々にかかわることを「**信仰と学術の間**」と捉えてここでは、「**宝物・文化財**」という呼称を用いることといたしました。（鈴木幸人記）